

一関商議所現状説明会

「必ず一歩踏み出せる」

山下氏(東大)、政府判断に期待

次世代の大型加速器「国際リニアコライダー(ILC)」の誘致判断が迫る中、一関商工会議所は10日、ILC現状説明会を一関市山目のベリーノホテル一関で開いた。ILC誘致を推進する立場の東京大素粒子物理国際研究センター特任教授の山下氏が講演し、3月7日が意思表明の期限となる中で「必ず一歩踏み出せる」と述べ、政府の判断に期待を寄せた。

会員ら約140人が出席の回答について「真剣に席。山下氏は、学術会議協議してもらった。学術



ILC誘致をめぐる科学的意義を認めつつも、文部科学省から依頼を受けて審議してきた日本学術会議が、ILCの

科学的意義を認めつつも巨額な建設費用に加え、国際的な経費分担が明確になっていないことを指

摘し「誘致を支持するに至らなかった」との見をまとめて2018年12月に文科省に回答。ILCを推進する国際組織が日本政府の意思表明の期限を3月7日と設定して最終局面を迎えている中で、ILCの現状について知ってもらおうと説明会が開かれた。



ILCの現状について説明した山下氏

的意義を評価してもらったことは非常にありがたかったことも良かった」と評価した。

誘致に向けたプロセスについて「今必要なのは日本政府が国際協議に入る一歩を踏み出すこと」と強調。意思表明があった場合には国際費用分担などの協議に入り、合意が得られれば建設に取り掛かることを示しながら「意思表明がなかったり、協議が破綻した場合には自動的にストップする。あくまで慎重に行くのがポイント。あと2カ月の間に国際協議に入る

ところまで到達しなければならぬ」と述べた。

その上で「3月まで全力疾走すれば、必ず一歩踏み出せる。日本だけでなく、世界の未来を切り開くことができるかどうか、極めて重要。政府の中で着実に総合的な判断に向けたステップが踏み始めていく」とした。

出席者からは放射性物質への懸念や経済効果などについて質問が相次いだ。山下氏は「いろいろな意見を出してもらいたい」と話していた。